

世界自然遺産知床・道東三山へ
羅臼岳・斜里岳・阿寒岳

実施日	2018年8月24日(金)～28日(火)
天候	曇り/小雨
リーダー	峯川 弘子
参加者	涌井良明、白石恵美子、石附智江、中村友子、宇野輝代、石附恵理子、濱田優美子、宮崎敏男、峯川弘子 計9名
費用	航空券(羽田⇄女満別)37,800～39,800円、宿泊費 30,080円、レンタカー+雑費 10,333円
タイム	8/25 岩尾別YH(5:30)羅臼岳登山口(6:00)弥三吉水(7:40)銀冷水(8:50)羅臼平(10:00)羅臼岳山頂(11:05)大沢入口(13:08)弥三吉水(14:21)登山口(15:40) 8/26 ホテル緑青荘(5:30)清岳荘登山口(6:35)二股分岐(7:51)上二股分岐(10:11)斜里岳山頂(11:34)途中昼食・上二股分岐(13:00)熊見峠(13:58)二股分岐(14:57)清岳荘登山口(16:10) 8/27 ホテル御前水(7:40)雌阿寒温泉登山口(8:30)3合目(9:20)6合目(10:20)雌阿寒岳山頂(11:10~11:50)雌阿寒温泉登山口(13:30) 8/28 ホテル御前水(7:30)雄阿寒岳登山口(7:50)1合目(8:40)2合目手前雨の為下山(9:10)

8/24 女満別空港からレンタカーでいざ知床へ、台風と一緒に北上して来たので出発前からテンション? だだっぴろくまっすぐなロード、こんにちはー、北海道!!
今日のはのんびり観光♪斜里清里町へ入ると右手に斜里岳がお出迎え、尖っててきつそー!そこからおシンコシンの滝へ、薄日も出て徐々にテンションも?左にオホーツク海を見ながら車を走らせ次はウトロ町、北の港町の美味しい海鮮丼で昼食後、いよいよ知床五湖へ、フィールドセンターで10分程熊

対策のレクチャーを受け出発、ヒグマの活動期の7月まではガイド同行でないと歩けないそうだ。



小雨がパラつくが五湖から一湖まで小1時間の散策、羅臼岳から硫黄山までの縦走路が顔をみせてくれた。今夜の宿はすぐそば、夕食と清里町で仕入れた生ホタテ&ワインで乾杯して就寝。

8/25 4時起床、雨は降っていないので早々に朝食をすませ出発、YHはネット環境がなく登山口のホテル地の涯で情報入手、降っても土砂降りにはならないだろう、何組か早朝に出発したとのことで雨なら撤退覚悟で出発する。

今日は標高差1,500m、ほぼ下から登る、いきなり急登から始まった。

いつ降られてもおかしくない雲行きの中、一歩々息が上がらない歩行で進む。

小1時間ごとに休憩し2カ所の水場に



到着するも煮沸しないと飲めないの我慢する。ピークをいくつか越えようやく傾斜が緩やかに



かになりハイマツの中を行くと羅臼平に到着、フードロッカーを初めて見た。

ガスと強風で寒い、山頂は見えないがここまですればあともう少し、山頂直下からは岩山に豹変、慎重に進みようやく羅臼岳山頂に到着した、わっしょーい!!



ガスで眺望はないが達成感でみんな笑顔、岩の山頂は狭く強風にあおられると危険なので



写真を撮って下山開始、風をよけられる場所で昼食、登ってきた長い道をまた下山した。

歩程9時間40分、羅臼町のHPに

北ア3,000m級の山に登る覚悟でと書いてあったがその通り。

羅臼はんぱねー！

8 / 26 清里町は昨日は雨、今朝は降っていない。昨日よりは少しは天気がまし？オホーツク海側には薄日があるが山側はやはりガスガス。

朝食弁当もそこそこに車で40分程で登山口の清岳荘に到着した。素泊まり専用の自炊小屋だが町営で水洗トイレも完備されたりっばなきれいな建物だ。



今日も雨な撤退覚悟で出発、沢コースの旧道に入る地点の渡渉地点で昨日までの雨で水量が増えて渡渉できなければ撤退です、羅臼でお会いしたガイドさんの情報でとりあえず行ってみる、林道を歩いた先に登山道、一旦登って沢に下る、流れが速く足首かえらひざ下くらいの深さがあるが石を選んでストックを頼りに行けば渡れる、ここから10回以上の渡渉を繰り返して旧道と新道の分岐に到着、ここまでの緊張でしばし休憩、さあここから7つの滝を越えていく旧道コース、危険の為下山は禁止、どうする？行ってダメなら戻って新道からにしようか？いやいや、登り始めたら戻るのも危険だし！

このコースが斜里岳の醍醐味、ほぼCLの独断と偏見で沢コースへ登山開始、しばらく進むと第一の滝、余裕のメンバー、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、



は滝を直登するそうですが滝を横断したすぐそばに登山道がつけられている、次はどんなトラップだかアスレチックみたいで楽しい、時々振り返ると青空の下オホーツク海が見える。いよいよラストボスの五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、



傾斜と幅も広くなってきた、登れそうなので個所を選んでのメンバーの自然に助け合いようやく終盤の上二股へ到着、ここから沢から離れ胸突き八丁を1時間20分、斜里岳山頂に到着した。



わっしょーい!!

2座目のガスガスでも達成感で皆笑顔、やりました！下山は新道尾根コースへ、楽かと思っただが次々出てくるピークの登山道が堪える、禁止だけど沢コースを下山した方が楽かも？

羅臼の疲れも取れないまま二日連続の9時間越え歩行、お疲れさまでした！！



8 / 27 今日行程が短いのでゆっくりホテルの朝食バイキングを食べて出発、天気予報はくもりのち晴れ、のんびり雌阿寒温泉の登山口へ車を走らせると小雨が降ってきた。

やはり山側はガス、雨具を着込んで登山開始、しばらくして樹林帯に入ると雨は落ちてこない、風もなく羅臼ほど寒さは感じない、すぐにレインウェアを脱ぎ1合目、2





合目、気分的に足取りも軽いがすっきり晴れてくれな、5、6合傾斜がきつくなってきた、7

合目過ぎた頃から下山者とすれ違、山頂は晴れてましたよ～ガスで上が見えないのに？8合目、下山者が山頂は青空で最高でしたよ～ほんと？9合目、ほんとだ、青空が見える！噴煙の上がる火口を下に見ながら歩いて山頂に到着、わっ



しよーい！！待たせたな阿寒岳、久しぶりの青空の山頂でしばしラUNCHタイムを楽しんだ後、

同じ道をサクサク下山、車でオンネトーへ、湖畔から雌阿寒岳と阿寒富士が並んで見えるがやはり雲がかかっている、山頂を青空で迎えてくれてありがとう！！野中温泉へ戻りイオウ分たっぷりの湯で疲れた体を癒しホテルへ、打ち上げ後、皆で日落ちたアイヌコタンを散策し楽しんだ。

8 / 28 最終日の予報は曇り晴れ、車で15分程で滝口登山口に着く、駐車場には2台の先客、湖のすぐそばに「阿寒湖」の看板がある。



ホテルも阿寒湖畔だがそこから見るのとまったく違う、静かで神秘的、これも登山のおかげかな！？湖畔を回る様に進むと太郎湖があらわれた、緑色の湖面と原生林が美しい！さらに足が届かないほどの倒木や木の枝を避けながら進む、昨日の雌阿寒に比べ

登る人が圧倒的に少ないのだろう。しばらくして今度は登山道の下に次郎湖が見えた、やはり美しい。そこから徐々に傾斜が増し連日の疲れからかみんな無言、ようやく1合目につく。立ち休憩をして歩き出すと雨が降ってきた、少しずつ雨あしが増してくる、このまま山頂に行ってもパンケトーやペパンケトーは拝めそらうもない、雨の雄阿寒岳はつらいだけだ、登山中止してゆっくり温泉&観光にしようということメンバー全員即決、早い！(笑)



せっかくなので阿寒湖畔のデッキでコーヒータイム、そこへホテル前から出ている遊覧船がやってきた、ここは遊覧コースの一部になるようだ。乗客もこっちも「オーイ！」とめいっぱい手をふる。めちゃ元気な中高年(笑)

ホテルへ戻り荷物を回収し阿寒湖を出発、北海道ガイドの提案でまず摩周湖へ、次は噴煙の上がる硫黄山を見学、温泉たま



山源泉の川湯温泉で入浴、お腹が空いてきたのでそこからラーメンを食べに網走駅へ向かう。車ならではの周

遊でとても楽しい。流水船乗場そばでラーメンをハンゴして女満別空港へ。

5日間の道東の山旅を終えました。ありがとう北海道、お世話になりました、セイコーマート！！

【あとがき】
タフな道東3座、本当にお疲れさまでした、役割分担など皆様のご協力のもと計画を無事に終わられたこと感謝いたします。

また雌阿寒岳での思わぬサプライズ、一生忘れられない山行になりました、ありがとうございました。

(記・峯川 弘子)

(写真提供・涌井、中村、石附(恵)、宮崎)